

目	授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用し て記入)	DP I【知識・理解】			DP II【思考・判断】		DP III【意欲・態度】													
				①	②	③	①	②	①	②												
											経営の 基礎的 専門知識 の修得 (DP I- ①)	会計・財 務の基 礎的専 門知識 の修得 (DP I- ①)	情報活 用に関 する基 礎的ICT の理解 (DP I- ①)	ICTの経 営、会 計・財 務への 展開能 力の修 得 (DP I- ②)	幅広い教 養、基 礎的知 識の修 得(DP I-③)	経営・会 計財務・ ICTの知 識を活用 した状況 の把握 (DP II- ①)	経営・会 計財務・ ICTの知 識を活用 した問題 解決に必 要な知識 の修得 (DP II- ②)	自律的・ 積極的 に知識探 求する意 欲と能力 の修得 (DP III- ①)	健全な職 業観や 就業観 の涵養 (DP III- ②)	協調して 活動でき るコミュ ニケー ション能 力の修 得(DP III -②)		
選択	華道1	日本の伝統文化いけ花のルーツを尋ねると池坊に出逢います。四季の花、草木を通して養われた豊かな心は、暮らしに癒しと潤いを与えてくれます。目まぐるしく移り変わる現代社会にこそ、ふと立ちどまって花を眺めるゆとりが大切です。草木を注意深く見つめ、草木の自然の美しさをとらえることから始めます。	1. いけ花を通して、日本の伝統文化を理解すること。2. 四季の草木に接して、豊かな心を養うこと。3. 草木をいける心構えを身につけること。																			
選択	華道2	「いけ花」は季節、環境、観る人など、他との調和、映りを大切にします。華道2ではその調和、映りを考え、花器との出会い、空間との関連を学んでいきます。「いけ花」によって、創造する楽しさを感じ取り、美意識を養っていきます。	1. いけ花を通して、日本の伝統文化を理解すること。2. 四季の草木に接して、豊かな心を養うこと。3. 草木をいける心構えを身につけること。																			
キャリア形成科目	必修	世の中の主な「仕事・職業」を解説することにより、自分自身の進路を考え、主体的な行動計画を策定できる知識を獲得する。このために産業、職種等の基礎的な知識を習得から始めて、自己分析・自己理解、セルフモチベーション等の知識を加え、グループ演習を繰り返すことにより、就職に対する自分なりの具体的な方針を決定し行動できるようにすることが本科目の目的である。	・主な産業及び職業の概要を説明できる。・企業研究を体験し、得られる情報を整理し記述できる。・メンタルタフネス、セルフモチベーション等の基礎的な知識を説明できる。・自己理解に基づいた、就職に対する自分なりの具体的な方針を述べることができる。																			
	必修	この科目では様々なキャリアを知ることで、学生1人ひとりの選択肢の幅、物の見方が更新されることを目的としている。さまざまなキャリアを歩んでくれている人材と接する機会を提供し、彼らがどのようなキャリアを歩んできているのか、キャリア発達という軸のもと、提示していく。	①キャリア発達について理解できる。②外部講師の話を理解し、自身のものの見方を更新することができる。③自身のキャリアについて考えることができる。																			
	必修	現代社会において報告・連絡などは、文書によって行われることが一般的である。このような文書を作成するには、さまざまな決まりを理解していかなくてはならない。国語表現法では、レポートなどの論理的な文書を作成するために必要とされる知識を身につけることを目的とする。併せて、実社会で記される文書を正しく理解するために必要とされる知識を獲得する。	1. 日本語の基礎を身につける。2. 文書作成に必要な知識を身につける。3. 目的に応じた業務連絡文書を記述できるようになる。																			
	必修	社会人・職業人としての自己実現のステージとして職業を捉え、自らがビジネスのプロとして社会的役割を認識し、責任感をもって行動することの大切さを培います。また、法律や社会のルール、組織規則等を守る意識を持つことを目標とします。	①社会人としてふさわしい心構えを身に付けて行動することができる。②ビジネスマナーの必要性を見るからの行動に当てはめ、確認することができる。③社会で信頼される言動・行動を身に付けて、実社会で振舞うことができる。																			
	必修	専門科目の理解ならびに就業時に求められる数値的思考力を習得するとともに、必要な情報を整理して、物事を抽象的に捉えて理論的かつ合理的に思考する力を習得する。	・物事を割合と比の概念により抽象化し、各種計算(損益算、仕算算など)に応用できる。・発生し得る状況を整理し、その組み合わせや確率を定量的に表すことができる。・与えられた数値的情報を正しく抽出して、必要な定量的情報を求めることができる。・与えられた状況を正しく判断し、分かっていること、分かっていないこと、求めるべきことを整理して正しく結びつけ、説明できる。																			
	必修	【多様化する雇用環境の中、将来のキャリア形成に必要な理論や知識、実際に企業が若年者に求めているエンプロイアビリティを養い、自ら就業能力や意識を高める】なお、本科目は就職試験に対応する一般常識についても修得する。	①学習者が一般教養的な知識(政治・社会・経済・文化・歴史・漢字・ことわざ・同義語・反意語・同音異義語・難読漢字等)を持つ。②学習者が新聞やテレビをはじめ様々なチャンネルを用いて社会経済の動向や時事問題に対し、常に情報収集に努め、自ら意見を表明できる。③学習者が大卒就職筆記試験に必要な一般常識レベルへ到達する。以上の3点を到達目標とする。																			
	必修	経営学では、経営組織における仕組みや機能、運営に必要な条件などが普遍的、一般的に体系化されている。この授業では、実際の企業での見学を通して、現代の(企業)経営、およびそれに関連する諸問題に関する理解を深めるとともに、参加者の就業意識と意欲の涵養を図る。	参加者が、①事前学習と企業訪問を通して現代社会を支える多様な産業や(企業)組織に接し、②それらの役割や機能を学び、また、③各自の就業について考察すること。																			
		インターンシップ1	インターンシップとは、学生が企業・行政機関などにおいて、用意された実習内容に従って様々な就業体験を行うものである。産学官連携で行う実践的教育を通して、問題を発見して解決する能力を涵養し、学生の学習意欲の喚起および高い就業意識の育成などの成果を「学びの往還」により得ることを目的としている。就業体験の事前準備の調査で得られた知識や情報と就業体験中に得られた知識・体験を総合し、独自のテーマに沿った分析や考察を就業体験後に報告することで、問題発見能力・解決力を習得することを旨とする。また、就業体験を通して、起業家・経営者という職務の実態、経営意識のあり方、組織における人間関係の重要性、物作りや研究開発の重要性と喜び、企業人に必要な専門的能力および起業家精神、企業活動における日々の小さな革新の重要性などを理解することを旨とする。	・実習先企業の概要・事業内容について説明できる。・実習配属先が、実習先企業の中でどのような位置付けにあるのかを説明できる。・実習内容が、実習配属先の業務の中でどのような位置付けにあるのかを説明できる。・実習内容の理解を深め、問題点・改善点などを考察できる。・上記の内容について報告書にまとめるとともに、口頭で発表することができる。																		
		インターンシップ2	同上	同上																		
	共通科目	必修	経営と情報	本科目は、専門科目の担当教員がオムニバス(輪番)形式で講義を担当する「プロムナード・レクチャー」である。本科目は、①担当者がそれぞれ専門領域の中心テーマや最新課題をできる限り分かりやすい言葉で解説し、②ビジネスや他領域との関連性を示し、③受講者が専門領域の講義に先立って領域全体を見渡せることを目的とする。また、各回の講義内容に関連したテーマでのレポート作成を通して、学生の積極的な意見を求める「参加型講義」を目指している。	・ビジネス/経営/情報活用に関連する現代社会のキーワードについて説明できる。・経営学部における学びの概略を説明できる。																	
		数学基礎	自然科学や社会科学では種々の現象を関数で表し、その増減・減少の状態を調べたり、最大値・最小値を求めることが多い。そのための有力な手段を与えてくれる微積分について学習する。経営学や経済学などの学習上、必要不可欠とされる微積分に関する基本的なことがらについて学ぶとともに、有力な解析手法ならびに精密な叙述力、正確な推理力を身につけることを目指す。	1.基本的な方程式・不等式を解くことができる。2.微分・積分の仕組みを説明することができる。3.データの特徴や傾向をとらえることができる。																		
		統計数学基礎	情報化社会の現況、確率や統計に関する知識は多くの分野や日常生活で必要である。その理論的背景の解説を通して、統計の見方、考え方、応用について学ぶ。各種の統計分布があること、それらの基礎統計量の計算法や意味を知り、それらをどのように応用するかについて述べる。品質管理、いろいろな推定、そして検定の方法などを具体的な例とともに考えていく。なお、はじめて確率・統計を学ぶ者にとっても理解できるように理論よりも演習に重点をおき平易な授業展開をめざす。	1.複雑なデータの特徴を数量的、視覚的に示すことができる。2.統計学の基本的な考え方をうけてデータ分析が行える。3.代表的な仮説検定法について説明できる。																		
必修		コンピュータリテラシ1	大学での勉学と日常生活に必要なパソコンとWindowsの基本機能、ならびにアプリケーションソフトの基本操作・実践的な活用法を修得するために、ネットワーク(電子メールやWebブラウザ)とWindowsの基本操作、アプリケーションソフト(Word、Excel)の基本操作および高度な操作方法を実習する。また、パソコン操作をより速く行えるようにするために、タッチタイピングを修得する。さらに、情報モラル(著作権、セキュリティ、SNS利用におけるトラブルとリスク回避、など)の基礎知識についても学ぶ。	・パソコンとWindowsの基本操作ができる。・Wordを使用して、指定された書式に従って文書を作成できる。・Wordを使用して、図表を織り交ぜた文書を作成できる。・Excelを使用して、指定された書式に従って図表を作成できる。・Excelの関数を使用して、グループ化したデータに対する計算処理ができる。・Excelの関数を使用して、条件に合った処理を実行できる。・上記のような使用方法を修得して、レポートやビジネス文書の作成、数値演算、情報処理などが日常的に行える。・タッチタイピングにより、1分間に100文字以上の文字を入力できる。																		
必修		コンピュータリテラシ2	大学での勉学と日常生活に必要なパソコンとWindowsの基本機能、ならびにアプリケーションソフトの基本操作・実践的な活用法を修得するために、ネットワーク(電子メールやWebブラウザ)とWindowsの基本操作、アプリケーションソフト(Word、Excel)の基本操作および高度な操作方法を実習する。また、パソコン操作をより速く行えるようにするために、タッチタイピングを修得する。さらに、情報モラル(著作権、セキュリティ、SNS利用におけるトラブルとリスク回避、など)の基礎知識についても学ぶ。	・パソコンとWindowsの基本操作ができる。・Wordを使用して、指定された書式に従って文書を作成できる。・Wordを使用して、図表を織り交ぜた文書を作成できる。・Excelを使用して、指定された書式に従って図表を作成できる。・Excelの関数を使用して、グループ化したデータに対する計算処理ができる。・Excelの関数を使用して、条件に合った処理を実行できる。・上記のような使用方法を修得して、レポートやビジネス文書の作成、数値演算、情報処理などが日常的に行える。・タッチタイピングにより、1分間に100文字以上の文字を入力できる。																		
選択	洋書講読演習	平成30年度より開講さらなるグローバル化の波が押し寄せる現在、オールラウンドな英語運用能力の重要性はますます高まっている。この授業では、英語1や英語2、英語コミュニケーション、ビジネス英語の履修者を主な対象に、英語文献を読むために欠かせないボキャブラリー(語彙)とノウハウを学ぶ。経営学・社会科学系を含む幅広い領域に教材を求め、少人数の履修者の自主学習を交えて実質的な学習機会を確保したい。	履修者の既存習得レベルに応じてボキャブラリーと構文を把握する力を向上させ、専門領域の書籍やホームページの理解に資すること。																			

基礎科目	必修	科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用し て記入)	DP I【知識・理解】			DP II【思考・判断】		DP III【意欲・態度】					
					①	②	③	①	②	①	②				
		社会学入門	この講義では、イギリスおよび西欧の成果に依拠しつつ、比較社会史および社会学の視点から近現代社会の変化とその論理を学ぶ。I 社会理論、II 社会的再生産—人口と家族、III 社会分化—階級とエスニシティ、IV 社会統合—福祉国家と教育、宗教、V 社会環境—都市と自然から数テーマを選択し、講義する予定。適宜、同一テーマに関するわが国の状況に言及し、比較考察を行う。受講者数が少人数の場合は、類似または関連する内容をセミナー形式で学習することがある。	参加者は、社会史と社会学の成果を学びつつ、近現代社会が変化する仕組みと帰結を理解する。	○										
		経済学入門	経済学とは、国民がものを生産する、売買するといった「経済的活動」を行うことにより、国民の豊かさがどうなるのかという結果を分析する学問である。経済学の知識を身につけることにより、国が豊かになるのかどうかという経済の先行きを予想したり、より国が豊かになるためにどのような政策が必要になるのかを理解することができるようになる。本講義は、経済学の入門編として、経済学の基礎的な考え方と分析方法についての解説を行う。	・経済学の社会的意義について説明できる。・分業の意義、比較優位について説明できる。・需要・供給曲線による価格・生産量の決定メカニズムについて説明できる。・独占の発生メカニズムと、問題点について説明できる。・外部性の概念を説明できる。・マクロ経済学の視点から、経済政策の効果について説明できる。・日本経済の動向について、経済学の理論に基づき説明できる。	○										
		経営学入門	経営学とは、企業活動の効率性を高め、従業員をはじめとした企業関係者、そして社会全体を豊かにするための学問である。企業が効率化を図る対象は、生産活動の効率化、販売活動の効率化、資金運用の効率化……など多岐に渡り、これに対応して経営学も多くの分野に発展し、細分化されている。本講義では、日本の経営学者および実業家が執筆した『やさしい経営学』をテキストとして用い、経営学の諸理論の概要を説明する。	・経営学が社会にどのように貢献するのか、説明できる。・経営学の基礎理論について理解し、説明できる。より具体的には、—経営組織論—マーケティング—イノベーション・マネジメント—経営戦略論—がどのような対象に注目し、どのように捉えているかについて説明できる。・日本企業の経営の特性について説明できる。・経営学の知識をもとに、社会における事象を分析できる。	◎										
		マーケティング入門	本講義では、企業経営におけるマーケティングの実例やケーススタディーをふまえながら、マーケティングの基本用語や機能を理解していくと共に、実社会の企業経営をマーケティング視点で見えていく力を養う。	・マーケティングの基本用語を理解し、説明できる。・マーケティングの機能や役割、戦略などを理解し、説明できる。	◎										
		簿記入門1	企業は様々な利害関係者のために、自身が営む経済活動の結果を報告する必要がある。その報告において用いられる技法が、「簿記」である。企業は、簿記を用いて、経済活動を記録、計算し、それを財務諸表という報告書に集約して、利害関係者に報告する。本講義では、企業において必要不可欠な簿記という技法の基礎を修得することを目的とする。	①簿記のしくみを理解する。②商品販売業における仕訳帳、元帳への記帳及び試算表の作成ができる。③現預金に関する仕訳ができる。④仕入・売上・繰越商品に関する仕訳ができる。⑤債権・債務に関する仕訳ができる。	○	◎									
		簿記入門2	企業は様々な利害関係者のために、自身が営む経済活動の結果を報告する必要がある。その報告において用いられる技法が、「簿記」である。企業は、簿記を用いて、経済活動を記録、計算し、それを財務諸表という報告書に集約して、利害関係者に報告する。本講義では、企業において必要不可欠な簿記という技法の基礎を修得することを目的とする。	①期中仕訳、決算整理事項について理解し、約束手形に関する仕訳ができる。・有価証券に関する仕訳ができる。・有形固定資産に関する仕訳ができる。・貸倒に関する仕訳ができる。・収益・費用に関する仕訳ができる。②伝票の作成ができる。③精算表、財務諸表の作成ができる。	○	◎									
		コンピュータ簿記	個人商店、中小零細企業から大企業に至るまで、ほとんどすべての企業が何らかの会計ソフトの使用あるいは会計情報システムを構築してコンピュータ簿記を行っているのが現状である。この講義では、わが国の小規模企業で一番多く利用されている会計ソフト「弥生会計」に実際の会計業務と同じように証憑を見ながら仕訳入力できるように授業を行う。あわせて、会計情報の利用方法についても学ぶ。	ビジネス社会において、経理の実務を理解すること。会計ソフトが生み出す会計情報を活用できること。会計情報をもとに組織の中で経営判断を下すことができるようになること。	○	◎									
		会計学入門	会計を初めて学ぶ学生の中には、会計に拒絶反応を示す人もいられる。しかしながら、会計は思っているほど難しいものではない。会計の原点は、他人のお金を預かって、それをどのように使い、その結果どうなったかを、自分にお金を預けてくれた人たちに報告するという単純なものである。本講義では、そのような会計の基礎を学び、会計の全体像をつかむことを目的とする。	①会計基礎概念を理解できる②財務諸表の種類、役割が説明できる	○	◎									
		ICTと現代社会	現代は情報化時代と言われているように企業、医療、福祉などビジネス社会のあらゆる業務に関する情報がコンピュータや情報ネットワークを介して処理されているといっても過言ではない。このような社会においては、情報を活用する利用者としてコンピュータやネットワークに関する基礎的事項の修得は必要不可欠である。本講義では、情報化社会における情報とネットワークすなわちICTに関する基礎的事項の修得を目指す。ITに関連する営業職種、新たにIT関連の職務に就く、IT関連の就職を希望する学生などを対象に作られた、ITに関する基本となる知識・スキルを評価する認定プログラムであるCompTIA IT Fundamentalsの合格を目指し、ICT知識や技能を身につけることを目的とする。	・ビジネスにおけるICTの必要性とその活用例を説明できる。・情報化社会の問題点・課題について説明できる。・教材の小テスト問題を通じてCompTIA IT Fundamentalsレベルの基礎知識について説明できる(ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、セキュリティ他)。	○	○	◎								
		ICT応用	平成30年度より開講				◎								
		ICT応用	専門科目や卒業研究において、自ら情報コミュニケーション技術を活用して合理的・理論的にものごとを実践できるようになることを目的として、ビジネス社会において必要となる情報コミュニケーション技術の具体的な活用方法を実践的な課題を題材に実習する。また、グループによる演習および発表を通して、学びにおけるPDCAを実践する。	・Excel、VBAマクロ、データベースの基本的な活用方法を習得して、必要なデータを抽出し、それらの処理・分析ができる。・実習内容、計算手法、結果などを図表にまとめ、論理的なプレゼンテーション資料を作成できる。・一連の演習および発表を通して、学びにおけるPDCAを実践できる。				◎						◎	
		経営システム入門	この講義は、情報学からの立場から、広く経営活動とその管理活動の各フェーズに於いて必要になる情報、並びにその情報の処理及び管理等について理解することを目的とする。さらに、経営活動のプロセスにおいてプロセスの最適化を目指すために、最適化情報、即ちベストプラクティス(適用されている最善の方法)を如何に導出して行くかを事例と共に講義する。講義と演習を併用して進める。	・経営活動とその管理活動の各フェーズに於いて必要になる基礎的な項目について理解する。・演習問題を通して経営システムの基礎問題を理解し解けるようになる。・その他の経営システムの基本的・応用的な問題について理解する。	○			◎							
		プロジェクトマネジメント	プロジェクトとは、「ある成果物あるいはサービスを創出する(目的という)ためにチーム(プロジェクトチームという)を組んで行う期限のある活動」のことをいう。このプロジェクト活動を行うために、目的を果たすための目標を設定し、その達成のために相互に関連するタスク(活動)を構成し、いくつかの組織や人が参加して実施される。プロジェクトマネジメントとは、このプロジェクトが目的を果たすために上手に進める活動のことをいう。プロジェクトチームで設定した目標を達成するためには、人(チームや外部組織)、行わなければならない、金、設備、(iPadやPC)などをバランスよく調整し、全体の進捗状況を管理しなければならない。本科目は、「プロジェクトマネジメント」を進めるために必要とする基礎となる知識、留意するべき点、チームワークの取り方等の理解を深めることを目的としている。また、本科目は、「プロジェクトマネジメント演習」の理論的裏づけを与えるものである。なお、授業においては、理論とともに理解促進のための演習を取り入れる。	・プロジェクトマネジメントを進めるうえでの基礎知識(会議運営の方法、グループ作業の方法、発想法、特的要因図)について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。・PMBOKの内容について理解し、5つのプロジェクトマネジメントプロセス群および10の知識エリアについて自分の言葉で説明できるようになる。・PMBOKを活用したプロジェクトマネジメントの方法について理解し、実際のプロジェクト活動において活用できるようになる。											
		プロジェクト実習1	社会(ビジネス)での活動はグループによる活動である。全ての意思決定は組織的に行われる。その様なビジネスシーンの中では、主体的かつ協調的に活動を行う必要がある。本演習科目では、地域企業・行政機関等と連携して地域の課題解決に取り組むプロジェクト活動を実践する。そのために、学生自らが具体的な目標を設定したプロジェクトの計画、運営、進捗管理、報告書の作成の4段階をグループで実践し、事業運営についての知識の理解を深める。プロジェクト運営の基本的な運営方法やその技法について、「プロジェクトマネジメント」で修得した知識を具体的に実践する。また、活動を自省することにより、自らの長所や強みを理解して、プロジェクトが計画通り進展するように努める。	以下の項目をできるようにする事を目標とする。・アイデアやプランの提案を行い、なすべきことを抽出してリスト化し、具体的行動ができる。・計画、運営、進捗管理、報告書の作成の4段階に分けて、プロジェクトを時間軸に沿って構成できる。・今後の計画や見直しを立てるために必要な事項を多面的に判断し、それぞれの事項についての状況を理解できる。・挨拶励行、礼儀作法、時間厳守などの規範を遵守するとともに、メンバー間で順守する雰囲気形成できる。・ミーティングや会議において、他者の意見を正しく聞き取り理解し、他者の理解を容易にする努力を行うことができる。・自己の意見、アイデアやプランを正しく伝え、対立する意見や活動の優先順位に関してメンバー間で調整できる。・グループ活動の中で、作業分担や役割分担の平等感が生じた際には、感情的ではなく建設的方法を検討できる。・決定された役割や分担作業について、自らの役割を意識し、協働と分担すべきことを理解して遂行できる。								○	○	◎	
		プロジェクト実習2	社会(ビジネス)での活動はグループによる活動である。全ての意思決定は組織的に行われる。その様なビジネスシーンの中では、主体的かつ協調的に活動を行う必要がある。本演習科目では、地域企業・行政機関等と連携して地域の課題解決に取り組むプロジェクト活動を実践する。そのために、学生自らが具体的な目標を設定したプロジェクトの計画、運営、進捗管理、報告書の作成の4段階をグループで実践し、事業運営についての知識の理解を深める。プロジェクト運営の基本的な運営方法やその技法について、「プロジェクトマネジメント」で修得した知識を具体的に実践する。また、活動を自省することにより、自らの長所や強みを理解して、プロジェクトが計画通り進展するように努める。	以下の項目をできるようにする事を目標とする。・アイデアやプランの提案を行い、なすべきことを抽出してリスト化し、具体的行動ができる。・計画、運営、進捗管理、報告書の作成の4段階に分けて、プロジェクトを時間軸に沿って構成できる。・今後の計画や見直しを立てるために必要な事項を多面的に判断し、それぞれの事項についての状況を理解できる。・挨拶励行、礼儀作法、時間厳守などの規範を遵守するとともに、メンバー間で順守する雰囲気形成できる。・ミーティングや会議において、他者の意見を正しく聞き取り理解し、他者の理解を容易にする努力を行うことができる。・自己の意見、アイデアやプランを正しく伝え、対立する意見や活動の優先順位に関してメンバー間で調整できる。・グループ活動の中で、作業分担や役割分担の平等感が生じた際には、感情的ではなく建設的方法を検討できる。・決定された役割や分担作業について、自らの役割を意識し、協働と分担すべきことを理解して遂行できる。								○	○	◎	

	授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	DP I【知識・理解】			DP II【思考・判断】		DP III【意欲・態度】			
				①	②	③	①	②	①	②		
				経営の基礎的専門知識の修得(DP I-①)	会計・財務の基礎的専門知識の修得(DP I-①)	情報活用に関する基礎的ICTの理解(DP I-①)	ICTの経営・会計・財務への展開能力の修得(DP I-②)	幅広い教養、基礎知識の修得(DP I-③)	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握(DP II-①)	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得(DP II-②)	自律的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得(DP III-①)	健全な職業観や就業観の涵養(DP III-②)
	ビジネスプランニング	社会人で遭遇する事業計画や起業・創業の際に必要なスキルを養うことを目標にします。相手との係わりがなかで、いかに相手にとって有益なプランを企画提案できることを理解・習得する。また経営とクオリティのバランス感覚を認識して、オリジナリティと優位性から他者からも認められるビジネスプランを作成させる。各地で開催されている「ビジネスコンテスト」にエントリーをして社会性も養う。	1、起業・創業の際に必要な基礎知識を習得できる。2、自分の考えを具現化できるようにする。3、ビジネスプランとして企画書が作成できる。この授業はビジネスコンテストにエントリーすることが目標です。・2006～2012年まで連続7年間入賞。・2015年入賞。・2016年・東三河ビジネスコンテスト最優秀賞、優秀賞のダブル受賞主なエントリーコンテスト先。・浜松ビジネスのたまごコンテスト・東三河ビジネスコンテスト・ベンチャービジネスグランプリ・浜松ビジネスコンテスト								◎	
	ビジネスプレゼンテーション	相手に伝達・行動を促すための「魅せるプレゼンテーション技術」の基本を習得します。その手段・手法は大幅に広がり、意思を明確に伝達すること、情報の的確な把握とニーズに対応する問題解決能力を中心に自己表現をすることで、実際にプラン書を作成してもらい、東三河ビジネスコンテストなど対外的な機関にエントリーできるようにスキルを養います。	1、伝える技術を習得することができる。2、論理的思考力を養うことができる。3、自分のアイデアを企画書にすることができる。4、企画書に基づいて対外的なコンテストに発表することができる。参考：この授業内で作成したプランを下記のコンテストで発表します。2006～2012年まで連続7年間入賞。2015年入賞。2016年は最優秀賞、優秀賞のダブル受賞をしました。・浜松ビジネスのたまごコンテスト・東三河ビジネスコンテスト・ベンチャービジネスグランプリ								◎	
	コミュニケーションスキル	ビジネス社会において、価値観や判断基準の異なる「人」と「場」の係わりが発生します。人は財産であり、相手にとってよりよい善性表現をすることでコミュニケーションの円滑化を推進します。自己認識と他者理解から言語表現と非言語表現の基本を学び、コミュニケーション技法を演習することでトラブルやクレーム等のヒューマンエラーの対処法から問題解決能力を習得します。ヒューマンスキル向上からビジネスコミュニケーション力を養い、特に、就職活動に役立つ採用側の観点から採用基準や面接方法を実践的に指導します。	1、社会人に必要なコミュニケーション能力を養うことができる。2、就職活動における「文章力」が養われる。3、就職活動における「面接力」を個人・グループで身につけることができる。								◎	
経営学	必修	市場経済においては、商品やサービスの価格運動を通じて資源や労働が社会的に配分されてゆく。こうした市場の価格運動を規定している消費者行動や生産者行動と、そこに含まれる諸要因を考察することが市場経済学の主要な目的となっている。本講義では、市場経済学の方法およびその体系を独立段階も含めて考察することとする。	市場における価格変動をミクロモデルを使って分析し、適正な消費者行動または生産者行動がどのようなものかを最終的に判断してゆきます。	○		◎		○	○			
		失業やインフレーションなどこれまで様々な経済的な諸問題が生じる中で、国民所得の大きさが近、現代における豊かさの一つの指標になってきました。では、国民所得とはどのような概念なのか、また国民所得を動かす要因はどのようなものなのか、本講義ではこうした市場経済学の基本的な諸課題を考察すると同時に、貨幣や信用、財政投融資などの諸課題にも視野を広げて説明する。	マクロ経済学の方法を使って国民所得論を分析し、最終的に有効需要論の政策的な妥当性を検討します。	○			◎	○				
		本科目は、企業経営における情報に対する基本的考え方と知識を理解することを目標とする。企業の情報資源をシステムとしてとらえ、分析視角の理解を深める。	①情報システムの概要を説明できる②経営情報システムの発展の過程を概説できる③企業と情報環境の概要が説明できる④マネジメントにおける情報化を概説できる⑤情報処理パラダイム、知識創造パラダイムを説明できる⑥問題解決、意思決定について概要を概説できる⑦幹線情報システムを説明できる⑧DSS(意思決定支援システム)、SIS(戦略情報システム)、ビジネスインテリジェンスについて概説できる⑨経営情報システムの設計・開発の概要を説明できる⑩経営情報システムの管理方法を説明できる⑪セキュリティ対策について説明できる		○		◎		○	○		
	必修	経営管理(マネジメント)とは、組織のもつ能力を状況のニーズに適合させながら、組織目的を達成していく過程である。本科目は、経営管理に関する基礎用語や概念を整理しながら、ケーススタディや演習を通じて経営管理を体系的に理解することを目的とする。	①管理の概念を説明できる②科学的管理法を説明できる③フォーティズムを説明できる④管理過程論を概説できる⑤人間関係論を概説できる⑥行動科学の概要を説明できる⑦コンテンツエンジニアリングを説明できる⑧組織とは何か、組織形態など組織論の概要を概説できる⑨経営計画と経営戦略を概説できる⑩リーダーシップ論、マーケティング、生産管理、財務管理の概要を概説できる	○		◎		○	○			
		この授業では、西欧諸国の「コーポラティズム(政労使、市民団体の協働と参加による政策形成システム)」をキーコンセプトに、西欧諸国とEUの雇用・労働市場政策、成長戦略と労務関係の現代史を学ぶ。導入部分では、社会政策と市場経済に関する基礎的な理論を概観し、後半では、特に戦後体制から1980年代以降の「ネオリベラリズム(新自由主義)の時代」への転換期における社会経済政策の現代史を概観する。社会政策政策に関しては、上記テーマに関係する限りで言及する。講義における概念・理論部分と各国史、EU(欧州連合)の社会経済政策の順序と重心は、変更する場合がある。なお、受講者が少人数の場合には、同一または類似テーマのテキストを輪読する形式に変更する場合がある。	参加者は、①異なる先進資本主義諸国における政治と社会経済政策のあり方を学び、②わが国の現況に関して考察する一助とする。	○				◎	○			
必修	現在の日本の経済・産業は、グローバル化の中で大きな変貌をとげつつある。本講義では、ふだんの講義では聴けない、生きた学問を、日々企業活動に取り組みされている方がたからお話を伺うことにより、現実の企業・産業について理解を深めることを目的としている。外部からお招きする講師がたざさわつておられる業種分野は種々様々であるが、特長ある企業あるいは経営方式がユニークである企業の方に講師をお願いしている。この講義は、次の二つの講義がワンセットとして構成される。①教師がお招きする講師の企業や業界あるいは関連する知識について講義をする。教師の講義の狙いは、企業や業界、さらに関連する経営知識について予備知識を与え、問題意識を持たせることである。②講師から直接にお話を聞き、企業経営や業界の諸問題について理解を深める。また、質疑応答の時間を設けているので積極的に質問することを強く要請する。	①招聘講師の講義内容を理解し要点にまとめることができる②①でまとめたことに対して自己の主張を提示し説明できる③事前講義の内容と講師の講義内容を結びつけて説明できる								○	○	◎
	マーケティングマネジメント	本講義では、企業経営におけるマーケティングの実例やケーススタディをふまえて、マーケティングの基本用語や機能を理解していくと共に、実社会の企業経営をマーケティング視点で見えていく力を養う。	・マーケティングの基本用語を理解し、説明できる。・マーケティングの機能や役割、戦略などを理解し、説明できる。	○			◎	○				
会計・財務科目	商業簿記(上級)1	日々の経済活動を記録し、種々の財務諸表を作成して経営に役立てるには、簿記の知識は必須である。本授業では、例題を通じて商業簿記の仕組みを学んでいく。	日商簿記2級程度の商業簿記の知識を習得する。					◎	○			
	商業簿記(上級)2	日々の経済活動を記録し、種々の財務諸表を作成して経営に役立てるには、簿記の知識は必須である。本授業では、例題を通じて商業簿記の仕組みを学んでいく。	日商簿記2級程度の商業簿記の知識を習得する。					◎	○			
	工業簿記(上級)1	工業簿記は、製造業において製造活動の記録、計算のために使用される簿記であり、原価計算と密接な関係がある。本授業では、例題を通じて工業簿記の仕組みを学んでいく。	日商簿記2級程度の工業簿記の知識を習得する。					◎	○			
	工業簿記(上級)2	工業簿記は、製造業において製造活動の記録、計算のために使用される簿記であり、原価計算と密接な関係がある。本授業では、例題を通じて工業簿記の仕組みを学んでいく。	日商簿記2級程度の工業簿記の知識を習得する。					◎	○			
必修	情報処理論1	ビジネス社会で広く利用されている表計算ソフト・Excelには、処理を自動化するマクロ機能や、マクロを作るためのVBA(Visual Basic for Applications)という機能が用意されている。VBAを用いて自動的に実行させたい処理を作成(プログラミング)することで、データ集計をはじめとする計算やグラフ作成などの定型処理を効率的に行うことが可能となる。本講義・実習では、Excelを一層活用するためのVBAについて、プログラミングに関する基本的な知識とともに利用方法を修得することを目標とする。	・「マクロの記録」機能を使って、所望の処理の自動化・効率化を行うことができる。・問題解決のための処理の流れ(手続き)を整理して組み立て、説明することができる。・VBAプログラミングを通して簡単なマクロを記述することができる。・問題解決・作業効率化のためにVBAを活用できる			◎	○		◎	○		
	情報処理実習1	ビジネス社会で広く利用されている表計算ソフト・Excelには、処理を自動化するマクロ機能や、マクロを作るためのVBA(Visual Basic for Applications)という機能が用意されている。VBAを用いて自動的に実行させたい処理を作成(プログラミング)することで、データ集計をはじめとする計算やグラフ作成などの定型処理を効率的に行うことが可能となる。本講義・実習では、Excelを一層活用するためのVBAについて、プログラミングに関する基本的な知識とともに利用方法を修得することを目標とする。	・「マクロの記録」機能を使って、所望の処理の自動化・効率化を行うことができる。・問題解決のための処理の流れ(手続き)を整理して組み立て、説明することができる。・VBAプログラミングを通して簡単なマクロを記述することができる。・問題解決・作業効率化のためにVBAを活用できる			◎	○		◎	○		
	情報処理論2	Visual Basicは入門的かつ広く普及しているプログラム言語の一つである。プログラムの仕組みを理解し、Visual Basicを用いて実際にプログラムを作成することで、基本的なプログラミング技術を習得することを目標とする。本講義では、主にプログラム言語の文法およびアルゴリズム(計算手順)をメインとする。	・Visual Basicの基本的な用語・知識を理解し説明することができる。・Visual Basicの基礎知識を基に基本的なプログラムを作成することができる。簡単なプログラムとアルゴリズムについて理解し説明することができる						◎	○		

情報コミュニケーション技術科目	授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用し記入)	DP I【知識・理解】				DP II【思考・判断】		DP III【意欲・態度】		
				①	②	③	④	①	②	①	②	
												経営の基礎的専門知識の修得(DP I-①)
	情報処理実習2	Visual Basicは入門的かつ広く普及しているプログラム言語の一つである。プログラムの仕組みを理解し、Visual Basicを用いて実際にプログラムを作成することで、基本的なプログラミング技術を習得することを目標とする。本講義では、主にGUIプログラム(Windows Formアプリケーション)をメインとする。	Visual Basicの基本的な用語・知識等を理解し説明することができる・Visual Basicの基礎知識を基に基本的なプログラムを作成することができる・簡単なプログラムとアルゴリズムについて理解し説明することができる					◎	○			
	システム理論	ITパスポート試験とは、ITの知識(約6割)、経営・法務などの業務の知識(約4割)が出題されるIT系の国家試験の資格です。ITパスポート試験には、コンピュータの仕組みやプログラミングなどの情報技術に関する知識と経営の基礎的知識が必要となります。この講義では、1年次必修のコンピュータ基礎の情報技術の知識を前提として、ITパスポート試験に出題される経営分野の基本をしっかり身につけることを目的とします。	ITパスポート試験に出題される経営分野の基礎的知識について・毎回の小テスト問題を通じて各項目について基礎レベルの知識を身につける。・まとめと確認テストを通じて、ストラテジ系とマネジメント系それぞれについて合格レベルの知識を習得する。・模擬試験問題を通じて、テクノロジー系を含め本試験合格レベルの知識を修得する。					◎	○			
	データサイエンス概論	IT技術の進歩により、企業は多種多様なデータをリアルタイムで入手するとともに、膨大なデータをコンピュータによって分析することが可能となった。統計学的知識によってデータを処理し、企業の戦略・戦術の策定、業務における様々な意思決定において正しい判断をするための支援をする学問がデータサイエンスである。データサイエンスの担い手(データサイエンティスト)は、統計学の知識を身につけているだけでなく、データ分析を活用してビジネスに役立つ提言をする企画力が同時に求められる。本講義では、まずビジネスにおいてデータサイエンスがどのように活用されているかの概略について解説する。その上で、統計学的な分析手法と、その手法がビジネスにおいてどのように活用可能かを紹介する。なお、本講義においては高度な数学的知識は求めず、各分析手法の特性と、その正しい活用法について理解・修得することを重視する。	・企業経営におけるデータサイエンスの役割を説明できる。・企業経営に関するデータに対して、適切な統計手法を用いて分析できる。具体的には、一基本統計量、一ヒストグラム、一相関分析、一回帰分析、一仮説検定について、分析によって示せるものを理解し、活用できる。・Excelを用いたデータ分析を行うことができる。・統計分析結果から、経営的な提言を導き出すことができる。					◎	○			
	データベース論基礎	目的:企業における複数の基幹業務を管理する経営情報システムがある。データベースは関連する基幹業務のデータを一元管理することができる。データベースシステムの設計と運用管理に必要な基本的な理論と情報技術を学ぶ。ここで学ぶ関係データベースの基礎理論は、顧客管理や請求管理などの基幹業務を対象にしたAccessによるデータベースシステム構築の技法と手順の理解を助ける。	・基礎:データベースの基礎的な理論と機能、そして主なデータモデルを学ぶ。・応用:演習科目で扱われる顧客管理、請求管理などの基幹業務と関連させて関係データベース(AccessおよびSQL)の実践的な活用方法を学ぶ。					◎	○			
	データベース実習基礎	関係データベースソフトのAccessを使いデータベース機能を具体的に学び、複数の基幹業務を事例にしてデータベースシステムの作成・運用・管理の方法を演習する。	・Accessの操作を通して、データベース基本機能を手順にしたがって演習することにより基礎レベルの知識技術を習得する。・Accessの関係データベース機能とマクロ機能を活用してアプリケーションソフトウェアを作成する。Accessの操作を通して、複数テーブルを関連付けるリレーションシップ機能を手順にしたがって学ぶ。・個別の演習問題を通して、データベースの正規化、リレーションシップ等の基礎的な作業が出来るようになる。					◎	○			
	ビジネスエッセンス	企業の不祥事が新聞などをにぎわしているが、法令遵守、人権、労働、環境などの多岐にわたる。これらから企業は、企業倫理の確立、法令遵守の徹底、社会的説明責任の履行を益々要請される。本コースは企業組織が市場からの信頼と評価を得られるために、また企業の中で働く人々の労働環境を倫理という視点から改善するために、どのようなマネジメント・システムを構築すべきかについて基礎的な考え方やその枠組みを理解する事を目的としている。	①経営倫理の概要を自己の言葉で説明できる ②経営倫理の歴史的背景と展開について解説できる ③企業の社会的責任について事例を含めて説明できる ④経営倫理と企業理念・哲学の関係を説明できる ⑤経営倫理と法・コンプライアンスについて説明できる ⑥コーポレート・ガバナンスのあり方と方法を説明できる ⑦経営倫理におけるステークホルダーの関係を説明できる ⑧倫理綱領の遵守の方法を説明できる ⑨経営倫理と組織体制の確立のあり方を解説できる ⑩経営倫理における監査のあり方を説明できる ⑪日本企業の経営倫理問題と対策を概説できる ⑫企業のグローバル化における経営倫理の課題を指摘できるとともにその対応を説明できる					◎	○			
	東三河産業界論	平成31年度より開講 ニュースや経営学のケースでは、世界規模で活動する大企業が注目されることが多い。しかし、経済および雇用の大部分を支えているのは、多数の中小企業である。また、トヨタの生産が多数の部品メーカーとの取引ネットワークで支えられているように、中小企業は日本のものづくりの国際競争力の源泉でもある。さらに、中小企業は新規事業を生み出すベンチャー的活動の担い手としても期待される。本講義は、東三河地域で活躍する優れた中小企業の事例を中心に紹介し、中小企業の重要性と、中小企業経営の特徴について理解することを目的とする。	・日本経済全体および東三河地域における中小企業の重要性を説明できる。・東三河地域において活動する中小企業の実態について説明できる。・中小企業の特徴、置かれている状況について説明できる。・中小企業経営に必要なマネジメントについて理解し、説明できる。					○	◎	○		
	日本経営史	歴史を学ぶということは、今あるものの本質を探ることです。全てのものは歴史の産物であり、歴史的考察なくしてその本質を知ることはできません。そして経営史は、経営の歴史ですから、現代の経営の本質を把握する学問と言えますが、その学びの過程では、歴史上の魅力的な企業家やエピソード(出来事)に出会うこともあり、そうした出会いこそ、歴史を学ぶ醍醐味であると思えます。そこでこの講義でも、そうした歴史的人物や出来事との出会いを大切にしながら、現代経営の歴史的体系を学べるようにしたいと考えています。なお、ここで言う経営の歴史とは、企業の歴史、企業家の歴史、経営制度の歴史と考えてください。	日本の現代企業経営が、どのように形成・発展してきたかを把握し、その本質を理解できるようにすることを、この講義の目標とします。それにより受講者は、日常で耳にする企業を身近に感じ、経営現象の本質を理解、自分の考えが持てるようになるでしょうが、同時に、自分にとって魅力的な企業家との出会い、重要な意味を持つエピソードと出会いが一つでも実現できれば良いと願っています。					○	◎	○		
	日本経済史	歴史とは、今ある現象の本質を歴史的因果関係をもって把握するものです。従って経済史は、現在の日本経済の本質を見極めるための学問とすることができると言えます。本質を見極めると、その現象に対する判断が容易になります。経済は政治と密接な関係にありますから、誤った経済政策を防ぐためのものとも言えますが、多くの人は経済政策に携わるわけではありません。しかし、経済政策に対する自分なりの意見を持ち、評価することはできますし、そうした能力を持つことは、成熟した市民として大変に重要なことです。本講義は、「日本経済史」ですから、日本の経済の歴史を学習しますが、上記の問題関心に基つき、時間的制約もあるので、話題を戦後の日本経済史に絞り、戦後日本経済の体験した、重要な、ある意味エポックメイキングとも言える経済的現象をトピックとして取り上げる方式を採用したいと考えています。	この講義の受講者一人ひとりが、戦後日本経済の重要な出来事に関する因果関係を理解し、その出来事に対する自分なりの意見を持ち、評価できるようになることを、本講義の目標とします。					○	◎	○		
	経営戦略論	人は将来の夢・目標を持ち、それを実現するために今何をすべきなのかを考え、日々行動することで、人生を有意なものにすることができる。人の集まりである企業も同様であり、企業がどのようなビジネスをするのかについて掲げる「目標」、それを実現するためにどのような行動をするかという「シナリオ」を定めたものが、経営戦略である。企業はどのような目標を掲げ、どのように実現すべきなのか。経営戦略論は、経営学・経営学の諸領域における理論に基づいた演繹的考察、および現実の企業の成功・失敗事例に基づく帰納的考察によって有効な戦略について探る学問である。本講義は、経営戦略論の基礎的理論・概念、分析手法について解説し、企業事例に対して経営戦略論に基づいて分析・考察する能力を修得することを目的とする。	・経営戦略論の基礎的理論・概念について説明できる。具体的には、一企業の競争優位性について説明できる。一ポジショニング・アプローチ、資源ベースの企業戦略について説明できる。一企業の競争戦略における差別化戦略、コスト・リーダーシップ戦略について説明できる。一企業の全社戦略における、多角化の意義について説明できる。・経営戦略論における分析フレームワークを用いて、産業・企業の分析ができる。具体的には、一ファイブ・フォース・モデルを用いた業界分析ができる。一PPMを用いた多角化事業の分析ができる。・企業・産業における動きについて、経営戦略論の視点から分析し、説明できる。					○	◎	○		
	イノベーションマネジメント	21世紀に入り、技術を経営の立場からマネジメントすることがますます重要になっている。本コースは技術がかかわる企業経営のイノベーションの戦略的マネジメントに関する基本的知識と実践的な考え方に方法論を学ぶ。さらに、イノベーションの推進に積極的に挑戦するコンセプト・創造型のリーダーシップのあり方を考える。	①イノベーションと技術の関係を説明できる②イノベーションのプロセスを解説できる③アントレプレナーの資質の概要を説明できる④コンセプトの創出の方法の概要を説明できる⑤新製品・新事業の創出の進め方を説明できる⑥経営戦略と技術戦略の関係や推進の方法を説明できる⑦R&D投資に関する理論を説明できる⑧知識創造経営の理論を説明できる⑨知的財産の戦略的方法を解説できる⑩技術のイノベーションとは何かを解説できる⑪イノベーションにおける起業家精神を説明できる					○	◎	○		
	生産管理	本コースは生産のマネジメントの方法を解説するものである。最初に生産(ものづくり)のマネジメントすなわち「生産管理」について解説する(Ⅰ部)。次に経営戦略を実行し、優位性を実現するための基盤となる各職能に共通なオペレーションをマネジメントするための考え方と方法論を理解することを目標とする(Ⅱ部)。生産の管理はサービスのオペレーションをはじめいろいろなオペレーションの分野に適用が可能であるので、Ⅰ部では生産に関するオペレーションに焦点をあててそのマネジメントの方法を習得することを目標とする。	①1生産の概念と生産方法を説明できる②2生産管理の主要要素であるQCDDの管理方法を説明できる③オペレーションの概念を説明できる④問題解決の考え方、プロセスを説明できるとともに技法を使いこなせる					○	◎	○		
	組織行動論	組織行動論という科目は組織における人間行動の理解を深めることが目的となる。私たちが組織で働くとき、私たちはどんな場合にどのような反応をし、どのような行動をするのだろうか。マネジメントする側にとすれば、どのようにしたら働く側から望む行動を引き出せるのだろうか。講義を通じてこれらについて理解を深めていく。	①講義内容を理解し説明することができる②①の内容に対して自身の事例と結び付けて説明することができる					○	◎	○		
	経営組織論	協働をいかにして組織化していくかが経営組織のテーマである。本講義は、近代組織論、コンティンジェンシー理論、構造機能主義、情報処理モデル、グループダイナミクス、組織文化などの理論を取り上げる。	①講義内容を理解し説明することができる②①の内容に対して事例と結び付けて説明することができる					○	◎	○		

	授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	DP I【知識・理解】			DP II【思考・判断】			DP III【意欲・態度】			
				(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)			
経営 学 科 目	人的資源管理論	人的資源管理の目的は、インプットとしての人的資源を効果的・効率的に確保し、育成し、活用し、処遇し、維持することによって、アウトプットとしての組織的・個人的ならびに社会的ニーズと満足を最大限に充足することにある。この目的を達成するために、具体的には要員計画、募集、採用、教育訓練、配置、異動、昇進、昇格、評価、賞金、福利厚生、定年退職などに関して、さまざまな人事施策が企画され運用されている。本コースでは、これまで日本の企業において、上述の諸点に関し、どのような人事哲学の基にどのような人事施策が導入され運用されてきたか、また、それらの施策が近年激しく起こっている環境変化の影響を受けて、どのように変革されようとしているかを講義し、その変革の是非について学生諸君と討議を重ねながら、これからの新しい人的資源管理の在り方を模索してみたい。	①講義内容を理解し説明することができる②①の内容に対して事例と結びつけて説明することができる					○	○	○			
	広告論	日常生活において、我々は毎日と言えるほど何らかの形で広告に触れている。本講義では、その広告がマーケティング・コミュニケーションの手段として持つ役割についての理論や実務上の知識を学ぶものである。	マーケティング・コミュニケーションの手段としての広告の歴史や理論を理解し、説明できる。広告の実務上の知識について理解し、説明できる。広告ビジネスの構造や、関連企業の役割について理解し、説明できる。					○	○	◎			
	インターネット・マーケティング	e-ビジネスは今や日本の流通システムを大きく変換しつつある。しかしe-ビジネスの学習は、新たなインターネット技術偏重が進められているのが現状である。本講義では、e-ビジネスの技術だけでなく、企業戦略や流通戦略とも関連させて、将来どのような業界に就職しても対応できる知識を得ることを目指す。	e-ビジネスの動向と課題について理解し、説明できる。e-ビジネスと企業戦略や流通戦略との関係性を理解し、説明できる。					○	○	◎			
	会社法	本年度は開講しない						○	○	◎			
	流通論	平成31年度より開講 商品を開発・生産しても、消費者のもとに届けることが出来なければ無意味である。商品を消費者に届ける「流れ」の仕組みは「流通システム」と呼ばれる。流通システムは消費者の生活の変化や、生産技術・輸送技術・情報通信技術……といった技術の進歩をきかけて進化していく。最近の事例としては、インターネットの発展によりネット通販が登場し、書籍や家電を扱っていた既存の流通・小売企業が脅かされているといった話は耳にしたことがあるだろう。流通システムには「このようにすれば良い」という最適解はなく、時代に合わせた変革が求められる。流通にたずさわる者には、現状を分析するための理論を習得するとともに、過去から現在にかけて流通システムがどのように進化してきたかという歴史に学び、将来を見据える能力が不可欠である。本講義は、流通論の理論解説と、先進的な流通企業事例の紹介を行い、履修者が流通システムについて分析する能力を修得することを目的とする。	①流通論について基礎的理論・概念を説明できる。 ②流通論の理論にもとづき、実際の流通システムの特性・競争優位性について分析・説明できる。 ③流通論の理論にもとづき、特定の流通システムの問題点を指摘し、改善・革新方法について説明できる。					○	○	◎			
	企業会計論	企業会計の目的は、企業外部のさまざまな財務情報の利用者に対して、信頼しうる有用な会計情報を提供することにある。わが国では、こうした外部報告の目的を達成するため、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準が形成されている。本授業では、企業会計の意義や企業会計の基準、そして、損益計算書及び貸借対照表の構成科目についての会計処理を含めた概略を説明する。	企業会計の意義や企業会計の基準について理解するとともに、損益計算書及び貸借対照表の構成科目についての基本的な知識を習得する。					○	◎	○	○		
	経営分析	投資者、債権者、経営者、従業員、国・地方自治体など企業を取り巻く多くの利害関係者は、その企業に対し各々何らかの利害を有し、様々な情報を採り入れて行う。その情報の1つに投資者が投資意思決定を行う場合に必要となる会計情報がある。意思決定をより適切なものにするためには、経営分析を行い、企業の実態を把握する必要がある。経営分析を行えば、その企業の問題点を把握することが可能となり、また、危機に陥る前に改善策を準備できる。一方、財務諸表に基づく企業間比較および期間比較が可能になるからである。本講義では、そのような役立ちを有する経営分析の主要な手法を修得することを目標とする。	自身の関心ある企業について、収益性分析や安全性分析といった代表的な経営分析手法が実践できるようになる。					○	○	◎	○		
	キャッシュ・フロー会計	企業の実績は財務会計の手続きにより作成された損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により利害関係者に開示される。しかし、企業の実態をより正確に把握するには、キャッシュ・フローの状況も確認する必要がある。そのために必要なのが、キャッシュ・フロー会計により作成されたキャッシュ・フロー計算書である。本授業では、キャッシュ・フロー会計の意義、概要を学ぶとともに、実際にキャッシュ・フロー計算書を作成する。	キャッシュ・フロー会計の意義、概要を理解した上で、キャッシュ・フロー計算書を作成する。					○	○	◎	○		
	原価計算	原価計算は、製品ごとのコストを計算することであり、簿記とともに会計学の基礎科目としての性質を持っている。企業において、適切な利潤を確保するためには原価計算の知識が必須である。本授業では、原価・コストの持つ意味と製造過程においてどのように原価が発生していくのかを追うことで原価計算の基本を学習する。	原価計算の基本的な知識を習得する。					○	○	◎	○		
	管理会計	企業の経営者や管理者は、適切な企業経営を行うため、管理会計を使って必要な情報を収集し、意思決定を行っている。管理会計は、意思決定しようとしている問題を数値化し、数量的に比較検討の上、最も有利な選択肢を導き出すものである。本授業では、管理会計に係る基礎的なトピックスについて概括的な説明を行う。	管理会計に係る基礎的な知識を習得する。					○	○	◎	○		
財務会計	財務会計とは、企業が営む経済活動を認識、測定し、企業の外部利害関係者に財務諸表等を通じて伝達することをその役割とする。本講義では、そのようなプロセスを伴う財務会計の目的・役割を支える会計理論の基礎を明らかにすることを目的とする。具体的には、各種の会計原則、会計基準等の内容を検討することになる。	財務諸表は、企業外部の利害関係者が、その企業を知る上で重要な情報源である。この講義で、財務諸表の基礎理論を修得することにより、財務諸表を通して提供される会計情報の特質究明が可能となる。					○	○	◎	○			
財務諸表論	財務会計の役割は、企業が営む経済活動を認識、測定し、企業の外部利害関係者に財務諸表等を通じて伝達することその役割としている。所有と経営が分離している現代の企業経営において、財務会計、財務諸表が果たす役割は重要性が高い。その財務諸表は、会計基準に従うかたちで作成される。本講義では、各々の会計基準がどのような規定になっているかを明らかにすることを目的とする。	企業が公表する財務諸表は、企業取引を、会計基準に従って、纏め上げたものといえる。したがって、会計基準を把握しなければ、財務諸表を理解することは出来ない。この講義を受講することで、会計基準の規定を修得し、財務諸表を適切に理解できるようになる。					○	○	◎	○			
税務会計	日本の会計は会社法(商法)、金融商品取引法、税法という法の基に制度会計として成立しています。いずれも企業を対象とするものの、会社法(商法)会計は株主のための配当可能利益の計算と債権者保護を、金融商品取引法会計は株式を公開して資金調達を行うための投資者保護を、税務会計は法人税の課税所得の計算を行うことを目的としています。本講義では税法の規定にしたがって課税所得の計算を行うための会計である税務会計を学びます。企業会計と税務会計の間には差異が存在しているため、本講義ではそれらの内容を検討していきます。	これまで簿記・会計で学習してきた「収益－費用＝利益」という基本的な計算とこれから学習する「益金－損金＝所得」という法人税等を算出するための基本的な計算との比較検討を行います。両者の間には、似ているようで似ていない部分があります。まずはその相違点について理解して下さい。税法ではすべての企業取引の税務会計処理を個別に規定していません。その前提は「一般に公正妥当と認められる会計処理の基準」によって計算された企業利益を基礎にして、税務上の加算・減算を行うことによって課税所得が計算され、税率を乗ずることによって法人税等が算出される仕組みになっているからです。受講者にはこうした構造を理解することを目標としています。					○	○	◎	○			
監査論	監査とは信頼性を付与する行為である。企業の監査には、内部の経営者のための内部監査と、外部の投資家や利害関係者のための外部監査がある。近代企業の監査要請はこのように二つの側面を持つと考えられるために、監査論も内部監査論と財務諸表の監査を中心とした会計監査とが研究されている。この講義では、財務会計制度を理解した上で、財務諸表の監査を中心に監査の歴史、監査基準の概要を学ぶ。企業が関わった事件、ケースも取り上げて、理解を深める。	企業社会における会計監査の役割を理解できるようになる。組織内の行為は監査の対象であることを理解し、絶対に不正行為を行わないなどの健全な就業観・職業感を養う。					○	○	◎	○			
国際会計	会計基準は、各国の様々な環境に対応しながら、生成されてきた。そのため、国によって、会計基準が異なるのは当然のことであった。しかしながら、昨今、会計基準は国際的に統一されつつある。本講義では、そのような国際的統一がなぜ起ころうとしているのか、および、そのような動向は会計の種々の目的に照らすと適切なものかどうかを考える力を養うことを目的とする。	国際会計の知識は、企業経営がグローバルに展開している現代において必要不可欠である。この講義を受講することで、国際的ビジネスパーソンに求められる国際会計の基礎知識を修得できる。					○	○	◎	○			

専
門
開
講
科
目

教育科目

情報コミュニケーション技術科目

教育科目	関連科目	授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用し記入)	DP I【知識・理解】			DP II【思考・判断】		DP III【意欲・態度】		
					(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)	
					経営の基礎的専門知識の修得(DP I-①)	会計・財務の基礎的専門知識の修得(DP I-①)	情報活用に関する基礎的ICTの理解(DP I-①)	ICTの経営、会計・財務への展開能力の修得(DP I-②)	幅広い教養、基礎知識の修得(DP I-③)	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握(DP II-①)	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得(DP II-②)	自立的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得(DP III-①)
		経営診断	有価証券報告書とは上場している会社が、投資家に対して様々な情報を提供するために、作成・開示することが義務付けられている書類である。メーカー、流通、サービスごとに代表的な企業の有価証券報告書(ユーホー)の分析を通じて、企業の経営診断の仕方を学ぶ。	有価証券報告書を用いた経営診断の方法や視点を理解する。具体的には(1)決算情報(2)歴史や事業内容(3)グループ会社の状況(4)従業員の給料(5)倒産の危険性などである。					○	○	○	
		データベース論1	ビジネスの現場で求められる情報活用力を身につけるために、リレーショナルデータベースを扱うための標準言語SQLの基礎的な使用方法、Oracleを用いて習得する。また、リレーショナルデータベースの基本操作を理解し、SQLによるデータベースの基本的な作成・管理方法を修得する。以上のことを通じて、オラクルマスター(Bronze)の資格取得の実力を身につけることを目指す。	以下のようなSQLの基礎的な使用方法を修得する。・条件に合致するデータを選択することができる。・選択したデータの表示フォーマットを指定することができる。・条件により複数の処理内容に対応することができる。・複数の表を関連付けてデータを取り出すことができる。・グループでデータを取り扱い、合計値などの結果を求めることができる。・データのトランザクション処理の簡単な制御ができる。					○	○	○	
		データベース実習1	ビジネスの現場で求められる情報活用力を身につけるために、リレーショナルデータベースを扱うための標準言語SQLの基礎的な使用方法、Oracleを用いて修得する。また、リレーショナルデータベースの基本操作を理解し、SQLによるデータベースの基本的な作成・管理方法を修得する。以上のことを通じて、オラクルマスター(Bronze)の資格取得の実力を身につけることを目指す。	以下のようなSQLの基礎的な使用方法を修得する。・条件に合致するデータを選択することができる。・選択したデータの表示フォーマットを指定することができる。・条件により複数の処理内容に対応することができる。・複数の表を関連付けてデータを取り出すことができる。・グループでデータを取り扱い、合計値などの結果を求めることができる。・データのトランザクション処理の簡単な制御ができる。					○	○	○	
		データベース論2	ビジネスの現場で求められる情報活用力を身につけるために、データベース・ソフトの一つである Oracle の基本的な管理方法ならびにアーキテクチャの理解を通じて、リレーショナルデータベースの基本的な管理方法を修得する。また、オラクルマスター(Bronze)の資格取得の実力を身につけることを目指す。	・リレーショナルデータベースの基本的な構造を説明できる。・リレーショナルデータベース・システムの基本的な管理内容について説明できる。・リレーショナルデータベース・システムの基本的な管理作業が実行できる。					○	○	○	
		データベース実習2	ビジネスの現場で求められる情報活用力を身につけるために、データベース・ソフトの一つである Oracle の基本的な管理方法ならびにアーキテクチャの理解を通じて、リレーショナルデータベースの基本的な管理方法を修得する。また、オラクルマスター(Bronze)の資格取得の実力を身につけることを目指す。	・リレーショナルデータベースの基本的な構造を説明できる。・リレーショナルデータベース・システムの基本的な管理内容について説明できる。・リレーショナルデータベース・システムの基本的な管理作業が実行できる。					○	○	○	
		プログラミング	数値データや画像、音声などのデジタルデータを処理する手順を記したものがプログラムであり、プログラムを作成することをプログラミングと呼ぶ。プログラムを作成するツール(プログラミング言語)には、BASIC、C言語、Java など様々な存在する。本講義では、プログラミング言語として広く利用されているC言語を用いてプログラミングの基礎を講義し、C言語の文法知識を学ぶとともに、データを処理する処理手順(アルゴリズム)の設計力を養う。現代の多くのプログラミング言語はC言語の影響を受けており、そのシンタックス(文法)は極めて類似している。このため、C言語の基本を学ぶことは、他の言語を学ぶ上でも非常に有益である。	・テキスト等を参照せずに簡単なC言語のプログラムを正しく記述することができる。・問題解決や作業効率化のためにC言語のプログラムを活用できる。・自ら作成したプログラムについて仕様や動作を把握して説明できる。・自ら作成したプログラムの改善点・改良点を挙げることができる。					○	○	○	
		プログラミング実習	本科目では、プログラミングで学んだC言語に関する知識に基づき、その理解をより深めるためのプログラミング演習課題に取り組む(実際のコーディング・コンパイル・実行)。	・テキスト等を参照せずに簡単なC言語のプログラムを正しく記述することができる。・問題解決や作業効率化のためにC言語のプログラムを活用できる。・自ら作成したプログラムについて仕様や動作を把握して説明できる。・自ら作成したプログラムの改善点・改良点を挙げることができる。					○	○	○	
		ビジュアルデザイン	本講義では、デジタル画像の基本的な概念や用語を理解し、適切にデジタル画像を扱うための知識と技術を身に付けることを目標とする。本授業においては、広く一般に使われているデザインツールであるAdobe Illustrator,Photoshopを用いてデザイン素材の作成、写真加工について理解を深める。	(1)ベクターデータについて・Illustratorのパスを操作し、所望の図形を描画することができる。・Illustratorの塗り色/線の色を操作することができる。・Illustratorのパスで描画した図形や文字をアウトライン化することができる。(2)ラスターデータについて・Photoshopを用いて写真の明るさや色調を補正することができる。・Photoshopのフィルタ機能を使うことができる。・Photoshopのレイヤー効果を使い、文字や画像にスタイルを設定することができる。・Photoshopで複数の写真を合成することができる。(3)紙面デザインについて・IllustratorとPhotoshopを適切に用いて、ビジュアル的な紙面を作成することができる。・ガイドや定規の機能を用いて、レイアウトを計画することができる。					○	○	○	
		ビジュアルデザイン実習	本講義では、デジタル画像の基本的な概念や用語を理解し、適切にデジタル画像を扱うための知識と技術を身に付けることを目標とする。本授業においては、広く一般に使われているデザインツールであるAdobe Illustrator,Photoshopを用いてデザイン素材の作成、写真加工について理解を深める。	(1)ベクターデータについて・Illustratorのパスを操作し、所望の図形を描画することができる。・Illustratorの塗り色/線の色を操作することができる。・Illustratorのパスで描画した図形や文字をアウトライン化することができる。(2)ラスターデータについて・Photoshopを用いて写真の明るさや色調を補正することができる。・Photoshopのフィルタ機能を使うことができる。・Photoshopのレイヤー効果を使い、文字や画像にスタイルを設定することができる。・Photoshopで複数の写真を合成することができる。(3)紙面デザインについて・IllustratorとPhotoshopを適切に用いて、ビジュアル的な紙面を作成することができる。・ガイドや定規の機能を用いて、レイアウトを計画することができる。					○	○	○	
		CG	TVゲームやアニメーション、映画などで多く用いられているコンピュータグラフィックスについて、基本的な概念や用語を理解するとともに、3DCGソフトウェア(Maya)の基本的な操作方法を習得することを目的とする。	(1)モデリングについて・NURBSプリミティブに対して拡大縮小/回転/移動、および、複製を用いることで、所望の立体を作成できる。・ポリゴンプリミティブに対して、エッジの挿入/頂点の移動、および、スムーズを用いる事で、所望の立体を作成できる。(2)マテリアルについて・立体に質感を割り当て、色付けすることができる。・ペイントツールを用いて立体に着色することができる。・立体をUV平面上に展開し、グラフィックソフトウェアを用いて着色することができる。(3)ライティングについて・ライトを作成し、三点照明の原理を用いて立体を照らすことができる。・影を付けることができる。(4)レンダリング・作成した立体からCG画像を作成することができる。					○	○	○	
		CG実習	TVゲームやアニメーション、映画などで多く用いられているコンピュータグラフィックスについて、基本的な概念や用語を理解するとともに、3DCGソフトウェア(Maya)の基本的な操作方法を習得することを目的とする。	(1)モデリングについて・NURBSプリミティブに対して拡大縮小/回転/移動、および、複製を用いることで、所望の立体を作成できる。・ポリゴンプリミティブに対して、エッジの挿入/頂点の移動、および、スムーズを用いる事で、所望の立体を作成できる。(2)マテリアルについて・立体に質感を割り当て、色付けすることができる。・ペイントツールを用いて立体に着色することができる。・立体をUV平面上に展開し、グラフィックソフトウェアを用いて着色することができる。(3)ライティングについて・ライトを作成し、三点照明の原理を用いて立体を照らすことができる。・影を付けることができる。(4)レンダリング・作成した立体からCG画像を作成することができる。					○	○	○	
		WEBデザイン	Webページは、文字や画像、動画、音楽といったマルチメディアコンテンツを統合的に表現することのできる非常に優れた情報媒体であり、一般的にはHTML(Hyper Text Markup Language)によって記述されている。しかし、一般人が作成するWebページでは、製作者の環境(OSの違い、webブラウザの種類、等)や主観に依存する表現が多用され、HTMLの原則が守られていないのが現状である。本講義では、Webページ制作に求められるコンテキストデザイン、ユーザビリティ、ビジュアルデザイン、アクセシビリティの4要素を正確に理解し、Webページ制作の実務に耐える技能を身に付けることを目標とする。	(1)ページ制作について・文法規則に則って与えられた情報(文書)を適切にHTML化できる。また、CSSを用いて目的のデザイン表現を記述できる。・人間の視覚特性について学習し、Webページ上で効果的な導線を作ることができる。(2)サイト構築について・情報の収集から構築化までの一連の作業について学習し、Webサイト構築を設計することができる。・保守管理の側面から、適切な階層構造、ファイル名、等を用いて、複数のページからなるWebサイトを構築できる。(3)素材の管理についてWebサイト上で様々な素材(マルチメディアコンテンツ)を利用できる。また、知的財産権について正しい知識を身に付け、一般の素材サイト等を正しく利用できる。					○	○	○	
		WEBデザイン実習	Webページは、文字や画像、動画、音楽といったマルチメディアコンテンツを統合的に表現することのできる非常に優れた情報媒体であり、一般的にはHTML(Hyper Text Markup Language)によって記述されている。しかし、一般人が作成するWebページでは、製作者の環境(OSの違い、webブラウザの種類、等)や主観に依存する表現が多用され、HTMLの原則が守られていないのが現状である。本講義では、Webページ制作に求められるコンテキストデザイン、ユーザビリティ、ビジュアルデザイン、アクセシビリティの4要素を正確に理解し、Webページ制作の実務に耐える技能を身に付けることを目標とする。	(1)ページ制作について・文法規則に則って与えられた情報(文書)を適切にHTML化できる。また、CSSを用いて目的のデザイン表現を記述できる。・人間の視覚特性について学習し、Webページ上で効果的な導線を作ることができる。(2)サイト構築について・情報の収集から構築化までの一連の作業について学習し、Webサイト構築を設計することができる。・保守管理の側面から、適切な階層構造、ファイル名、等を用いて、複数のページからなるWebサイトを構築できる。(3)素材の管理についてWebサイト上で様々な素材(マルチメディアコンテンツ)を利用できる。また、知的財産権について正しい知識を身に付け、一般の素材サイト等を正しく利用できる。					○	○	○	
		情報ネットワーク論1	シスコネットワークアカデミープログラムを通して、コンピュータおよびネットワークの知識を深めます。この科目ではCCENT,CCNA Routing and Switching最初のカリキュラムであるIntroduction to Networks(Network Basics)を実施します。	・カリキュラムの小テスト問題を通じてCCENT,CCNAの基礎知識を身につける。・Final Examを通じて、次のカリキュラム、試験合格レベルの知識を修得する。・最終的にはCCENT,CCNA Routing and Switchingの取得を目指します。					○	○	○	
		情報ネットワーク実習1	シスコネットワークアカデミープログラムを通して、コンピュータおよびネットワークの知識を深めます。この科目ではCCENT,CCNA Routing and Switching最初のカリキュラムであるIntroduction to Networks(Network Basics)を実施します。	・カリキュラムの小テスト問題を通じてCCENT,CCNAの基礎知識を身につける。・Final Examを通じて、次のカリキュラム、試験合格レベルの知識を修得する。・最終的にはCCENT,CCNA Routing and Switchingの取得を目指します。					○	○	○	
		情報ネットワーク論2	シスコネットワークアカデミープログラムを通して、コンピュータおよびネットワークの知識を深めます。最終的には、CCNA R&S(Cisco Certified Network Associate Routing and Switching)の取得を目指す。この科目では、カリキュラムの CCNA R&S: IN(Introduction to Networks)の知識を基に CCNA R&S: RSE(Routing and Switching Essentials)を実施し、Cisco ルーター・スイッチの基本設定等について実機実習を通じて学ぶ。	・CCNA R&S: RSE カリキュラムの章末試験および最終試験において、70%以上の得点を取得できるよう知識を身に付ける。・OSI モデルおよびTCP/IP モデルを説明できる。・要件にしたがいサブネット作成(計算)ができる。・PCの基本ネットワーク設定(IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS)ができる。・ルータおよびスイッチの基本構成(コンポーネント)を理解し機器を適切に扱うことができる。・Cisco IOS CLI を通じてルータおよびスイッチに対して基本的な設定を行うことができる。・ネットワークポロジ図にしたがい適切なケーブルを用いて正しく配線(ケーブルリング)できる。					○	○	○	

授業科目名	授業概要 (授業科目の存在意義を記入)	授業の到達目標 (授業科目の学習後に到達すべき目標を、学生を主語にして、行為動詞を使用して記入)	DP I【知識・理解】			DP II【思考・判断】		DP III【意欲・態度】						
			(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)					
			経営の基礎的専門知識の修得(DP I-①)	会計・財務の基礎的専門知識の修得(DP I-①)	情報活用に関する基礎的ICTの理解(DP I-①)	ICTの経営・会計・財務への展開能力の修得(DP I-②)	幅広い教養、基礎知識の修得(DP I-③)	経営・会計財務・ICTの知識を活用した状況の把握(DP II-①)	経営・会計財務・ICTの知識を活用した問題解決に必要な知識の修得(DP II-②)	経営・会計財務・ICTの知識の問題解決への応用(DP II-②)	自律的・積極的に知識探求する意欲と能力の修得(DP III-①)	健全な職業観や就業観の涵養(DP III-②)	協調して活動できるコミュニケーション能力の修得(DP III-②)	
情報ネットワーク実習2	シスコネットワークアカデミープログラムを通して、コンピュータおよびネットワークの知識を深める。最終的には、CCNA R&S(Cisco Certified Network Associate Routing and Switching)の取得を目指す。この科目では、カリキュラムの CCNA R&S: IN(Introduction to Networks)の知識を基に CCNA R&S: RSE(Routing and Switching Essentials)を実施し、Cisco ルータ・スイッチの基本設定等について実機実習を通じて学ぶ。	・CCNA R&S: RSE カリキュラムの章末試験および最終試験において、70%以上の得点を取得できるよう知識を身に付ける・OSI モデルおよびTCP/IP モデルを説明できる・要件にしたがいサブネット作成(計算)ができる・PCの基本ネットワーク設定(IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS)ができる・ルータおよびスイッチの基本構成(コンポーネント)を理解し機器を適切に扱うことができる・Cisco IOS CLI を通じてルータおよびスイッチに対して基本的な設定を行うことができる・ネットワークポロジ図にしたがい適切なケーブルを用いて正しく配線(ケーブリング)ができる					○	○						
ネットワーク構築	LANやインターネットなどの情報ネットワークの実際は、ルータやスイッチなどのネットワークデバイス、UTPケーブルやファイバケーブルなどの各種メディア、そしてサーバによって構成されている。現代における情報ネットワーク上の通信はすべて「クライアント/サーバ方式」であり、サーバによりサービスが提供されて、はじめて「ネットワーク」の存在価値があるといえる。このため、サーバに関する知識を深めることは、ネットワークを理解するうえで非常に重要である。本科目では、ネットワークに不可欠であるサーバに注目し、実際にサーバシステムの構築を行うことによって、サーバおよびネットワークに関する知識を深めることを目的とする。構築にあたっては、サービスをインストールして動作させることにとどまらず、安定運用のための管理方法やセキュリティ対策についても知識・技術を学ぶ。	・基本的なUNIXコマンドについて参考書なしで使いこなすことができる・UNIX OS(Linux)を計算機にインストールできる・UNIX OS(Linux)のディレクトリツリーの概要を理解して説明できる・テキストを参照しながら所望のサービスやアプリケーションをインストールできる・テキストを参照しながら所望のサービスやアプリケーションを適切に設定・起動し提供できる・サーバログや統計情報などのステータスをチェックして説明できる					○	○	◎	○				
専門教育科目	演習A	平成30年度より開講		○	○	○	◎	△	△	○	◎	◎	○	○
	演習B	同上		○	○	○	◎	△	△	○	◎	◎	○	○
	演習C	同上		○	○	○	◎	△	△	○	◎	◎	○	○
	必修 専門ゼミナール1	担当教員の専門分野を中心に解説、指導が行われる。最終的には「創造的で発展的な意思決定」ができるようになることを専門ゼミナールの共通の目標とする。	共通の方法として、ゼミナール形式により、まず、課題決定のための基礎的な知識の修得や論文調査等の指導を行う。	○	○	○	◎	△	△	○	◎	◎	○	○
	必修 専門ゼミナール2	同上	専門ゼミナールとしての共通の目標に向けて、基礎的な知識の修得や論文調査等を行いつつ、研究課題の決定を行う。	○	○	○	◎	△	△	○	◎	◎	○	○
必修 専門ゼミナール3	同上	ゼミナール形式により、各学生の研究課題に対するこれまでの研究とその成果を中間レポートとしてまとめさせ、中間発表を設定し指導する。	○	○	○	◎	△	△	○	◎	◎	○	○	
必修 専門ゼミナール4	同上	ゼミナール形式により、各学生の研究課題に対する研究とその成果を、卒業論文および卒業論文の発表までを指導する。	○	○	○	◎	△	△	○	◎	◎	○	○	